

コラム

冬の日向ぼっこ

冬、ぽっかぽかの日向ぼっこ……こんな経験はありませんか。冬の陽差しは、縁側の奥まで射し込み、暖かく照らしてくれます。伝統的な日本家屋では、南側に軒を出して縁側をつくり、冬の陽差しを家の中に取り込む工夫がありました。

12月22日は冬至。一年で最も昼時間の短い日が冬至です。このときの太陽は、最も高くのぼる南中高度で約30度。この太陽の日射は、軒の高さ2mあれば、軒先から3.4mぐらいまで射し込めます（高さの1.7倍）。暑さ寒さも彼岸までと言いますが、お彼岸の春分、3月20日では、太陽の南中高度は約53度、射し込む日射は高さの0.7倍。ですから、この高度30度から53度の暖かい日射（高さの1.7倍～0.7倍）を家の中に取り込む工夫をすることで、冬の日中を「日向ぼっこ」で暖かく過ごすことができます。



もうひとつ、冬至は日出が遅く日没が早くなるので、昼時間が最も短くなります。その日出や日没の方位は、南中から東・西それぞれに62度、このことから、南に面した縁側には、日出から日没まで日射が届くことがわかります。

※お彼岸の春分では、日出と日没はそれぞれ南中から約90度、真東と真西となり、南側の窓からは日差しが入らなくなります。

※文中に出てくる太陽の高度や方位は長野県小諸市・緯度36.32度の場合です。

【文責】佐藤 重

日本の冬は、太平洋側では晴れ、日本海側では曇りや雪の天気が続きます。

冬（12月～2月）の日照時間を比較すると、東京は538時間、新潟は195時間。

佐久の冬の日照時間は550時間となっており、天気の良い太平洋側に匹敵しますので、冬の日射しの活用に適しています。

★長野県の気象官署の冬（12月～2月）の日照時間

長野 401Hr 松本 505Hr 飯田 513Hr 軽井沢 546Hr 諏訪 536Hr

冬の長野県は、北部の豪雪地域以外では冬の日照時間が長く、日射しの暖かさを活用できます。

北部の豪雪地域では200時間～250時間と少ないですが、中南部の多くのところは500時間を超え、東京並みです。

【文責】宮澤 信

長野県地球温暖化防止活動推進員有志

有賀宏道	赤尾興一	宇野親治	深澤優子	佐藤 重
島川清一	中野昭彦	樋口嘉一	細田恵莉	壬生善夫
宮澤 信	宮原則子	本木修一	山岸恒夫	山本喜昭